

CDを流せば、ノリノリで歌い、踊ってくれた低学年・中学年。しかし、高学年の心のガードは堅いです。そんな高学年の心をくすぐるために必要なのは、勝敗 スリル リズムだと考えます。ここでは、高学年も熱中するようなスリリング(?)な Warm-up を紹介します。

1. 「My name is Jamie.」 中本幹子著 「実践家からの児童英語教育法」 株式会社アプリコット
準備: CD (なくても良い)

人数: クラス全員 or 4 ~ 5人グループ

言語材料: My name is ~. What's your name?

子どもは円を作る。

手を叩きながらリズムをとって、時計回りに名前を聞いていく。

S1: My name is (名前). (S2に) What's your name?

S2: My name is (名前). (S3に) What's your name?

S3: My name is (名前). (S4に) What's your name?

S1の右隣の子どもは、My name is (名前)と答えた後、S1に What's your name?と聞く。

S1は自分の胸に手をあて、I'm (名前).と答え、右隣の子どもの肩に手を置き、You are (名前).と言う。言われた子どもは、自分の胸に手をあて、I am (名前).と答え、右隣の子どもの肩に手を置き、You are (名前).と順番に言っていく。名前を聞いた時と逆に回し、S1に戻るまで続ける。

S1: I am (名前). You are (右隣の子の名前).

.

S3: I am (名前). You are (S2の名前).

S2: I am (名前). You are (S1の名前).

グループごとに発表する。

2. 「U are Out!」 中本幹子著 「実践家からの児童英語教育法」 株式会社アプリコット

準備: アルファベットチャート

人数: クラス全員 or 4 ~ 5人グループ

言語材料: アルファベット

円形に座る。

アルファベットをAから順に言っていく。

アルファベットのUを言った子どもを指さして、みんなで You are out!と言う。Uを言った子どもは円の外に出る。

円の外に出た子どもの隣の子どもは、Uの次のVから始め、W、X、Y、Zまでくると、またAに戻る。

一人になるまで何度か繰り返す。

アルファベットを1回に3文字まで言えるルールにすると、Uにあたる子どもを調整できるので、さらに盛り上がります。

応用 . . . Don't say 21.

1から数字を順に言っていく、21を言ってしまった子どもは円の外に出る。1から再びスタートする。